

3-2 「ID/ICE」を落とし込んだ「授業振り返り」の取り組みやすさの工夫

令和元年度に作成した【「生徒主体の学びのデザイン」がなされているかを問う授業振り返りシート】を使い、実施を継続しました。実施時期は、1回目7月、2回目12月の2回実施しました。職員一人一人へ返却された結果を元に、2学期以降振り返りデータを各自分析し、工夫を加えた実践を行いました。

生徒は「学習設計マニュアル」を手元にもっています。わからない言葉や内容が出てきたときには、その本へと学びがつながるように、関係する章やページを掲載することにしました。

令和3年度は「第二高校キャリア・パスポート」の2つ目の柱に位置付けました。「授業振り返り」の各項目と本との接続を説明する記述は、下記の通りです。

「授業振り返り」～ 自分の学び と 授業のデザイン ～

「授業振り返り」は、自分の学びを考える機会です。みなさん自身の学びをよくするためですが、同時に、毎日の各授業自体のデザインがどうかを考えてください。先生たちは、その意見を基に、日々授業を一層よくしていきます。

みなさんが手元に持つ「学習設計マニュアル」は、「学び方を学ぶ」本です。この「授業振り返り」には、難しい言葉も出てきますので、関連するページと説明を加えています。関連する内容は1つではなく、本のあちらこちらにあります。気になる部分は、ぜひ本を開いて理解を深めてください。

あなた自身の学び方が深化していくことを期待します。

1. 授業デザインはどうか？

授業のがどのように準備され展開されているかを考えましょう。それぞれの記述にあてはまるレベルをMAX4で答えてください。以下10項目です。

※設問はすべて「ICEモデル」の視点で分類されています。

I (Ideas) は知識、C (Connections) はつながり、E (Extensions) は応用・発展を表します。

①授業（教材）では目標が何か理解できる機会がありますか？（I）

目標を提示することで、全体の活性化・焦点化につながります。

【学習設計マニュアルP127 / 事象2：授業の目標を知らせる】

②授業（教材）では知識を「体得する」機会がありますか？（I）

新しい事柄を提示して記憶に組み込む作業と、いったん記憶に組み込まれたものを引き出すための道筋をつける作業です。最後にまとめをして、出来具合を確かめて、学んだことを忘れないようにします。これらは「記憶のモデル」と関係しています。【学習設計マニュアルP131～133 / 具体的な学びの工夫例】

③授業（教材）では「思考を促される問い」はありますか？（C）

単元を通して思考したことが、授業での問いかけや教材によって意識できましたか？

④授業（教材）では「思考を促される工夫」はありますか？（C）

取り入れられている工夫が「A：おもしろそうだ」「R：やりがいがありそうだ」「C：やればできそうだ」「S：やってよかったな」のどれにあたるでしょうか。【学習設計マニュアルP117 / ARCS（アークス）モデル】

⑤授業（教材）では生徒同士で思考を促し合う機会がありますか？（C）

「思考を促し合う機会」は、ペアやグループでの話し合い、記述したものの回覧、他者への気付き・感想、他者への質問などがあります。これにより、他者との意見交換による気付きが得られます。また、P88には、協働学習をうまく行っていくために最低限守るべき原則が掲載されています。【学習設計マニュアルP153 / 練習とフィードバックの「態度」】

「学び方を学ぶ」ための 前提となる考え方：同意できますか？ の取組

本「学習設計マニュアル」を使った取組の一環として取り 組みます(前半部分)

「学び方を学ぶ」ための前提となる考え方：同意できますか？ R 2

次に挙げる【「学び方を学ぶ」ための前提となる考え方】14項目に挑戦してみてください。
項目全てに、その文章の根拠となるモデルと「学習設計マニュアル」の章が示されています。難しくわからない時は、「仮面」で構いません。
GR/ASでの「学習設計マニュアル」の取り組みを経て「学び方を学ぶこと」の理解が少しずつ深まり、この個人ワークの「ひっかかり」が「納得」→「賛成」へと変化していきますように。

- 1.人によって学習ペースは違うが、その人にとって十分な時間をかければみんな最後には学習目標を達成し、自分で学んで獲得する知識が徐々に増えていく。(時間モデル：第9章)
- 2.全部覚えていなくても応用問題に取り組むことはできる。必要な情報を参照しながら、他者に助けられながら学習に取り組む中で、必要な知識・スキルを自然と身に付け、自分一人のできる学びの範囲を徐々に広げていくのが「真のまなび」である。(経験学習：第17章)
- 3.人は、情報を受ける(インプット)だけでは学べない。生徒が自ら行動して、自分なりの知識を組み立てていくのが効果的な学習方法であり、頭と身体、記憶と応用力ではそれぞれ最適な練習方法が異なる。(9 教授事象：第12章、構成主義)
- 4.人は失敗をしてその原因を追求しようとすることで学ぶ。失敗したときにその理由を考え、次に挽回の理由を考え、成功事例をひろげていくのが、自立した学習者になるために効果的である。(事例駆動型理論：第10章)
- 5.何かを学ぶときには、そのことだけを理解することを目指すよりも、「これが役に立つ場面はどこにありそうか」を想像して、学ぶ意味を感じながら学ぶようにするのがよい。(状況学習論)
- 6.教えてもらおうとすればするほど自主性を奪われる結果になりかねない。先生に頼るばかりは避けて、自分で選択・制御して責任をもち、「自分事」だ、自分がやらないと学習は前に進まないのだと覚悟するのがよい(成人学習学)

本「学習設計マニュアル」を使った取組の一環として取り 組みます(後半部分)

- 7.学び方は教科によって違う部分もあるが、共通した学び方もある。得意科目の学び方を苦手科目を学ぶときにも使えるかどうかを試してみるのは無駄ではない。(汎用性)
- 8.学び方は自分の経験だけで工夫して身につけるのだけではなく、学び方のノウハウとして蓄積されることを学んで真似して使ってみる方が、短時間で身につく。(教育の科学化)
- 9.学習に役立つ「学び方」の基礎理論や他の人のノウハウは、適材適所で何でも真似して活用してよい(折衷主義)
- 10.学習の評価は、総学習時間数(プロセス)ではなく、学習成果で行われるべきである(帰修主義でなく習得主義)
- 11.到達すべき目標をすでにクリアしていることが確認できた生徒は、次の段階の学習に取り組めるようにしてよい(事前テスト：第13章)
- 12.教師の責任は、最低合格条件を生徒に明示して、複数面のチャンスを与え一人ですることができるように導くことであり、各生徒が実際にそこに到達するかどうか責任を負うことはできない(学習者制御：第18章)
- 13.やる気のない自分を放置せず、その気になろうと工夫することは、学習の責任範囲にも含まれる(動機付け設計、ARCSモデル：第11章)
- 14.高校生での学びを小学校のように待ってはいけいない。学習方法もやる気も自分で選択・制御して、学ぶ責任は自分にあることを明らかに理解するのがよい。(自己主導学習)

4 職員研修の取組

4-1 第二高校職員研修サイト

研究の成果をタイムリーに反映させることができる「第二高校職員研修サイト」を google サイトで作成し、活用を試みています。

サイトマップは下記の通りです。

🏠ホーム

- 二高 I S M (学校で行われるすべての研修全体の名称)
- 職員研修シラバス
- オンライン授業の計画
- Chrome 学習会 (毎週月曜日 16:00~16:40 実施・希望者参加)
- R3 授業研鑽推進月間

【I D】

- 見せどころシート
 - フォーム
 - 記入方法説明
 - 各教科実践例
 - 事業の記入例
- I Dの前提
- 結果の共有

【二高 I C E モデル】

- 二高 I C E 視点のチェックリスト (二高キャリアパスポートの取組①)

【授業振り返り】(二高キャリアパスポートの取組②)

【シラバス】

【思考を促す評価問題】

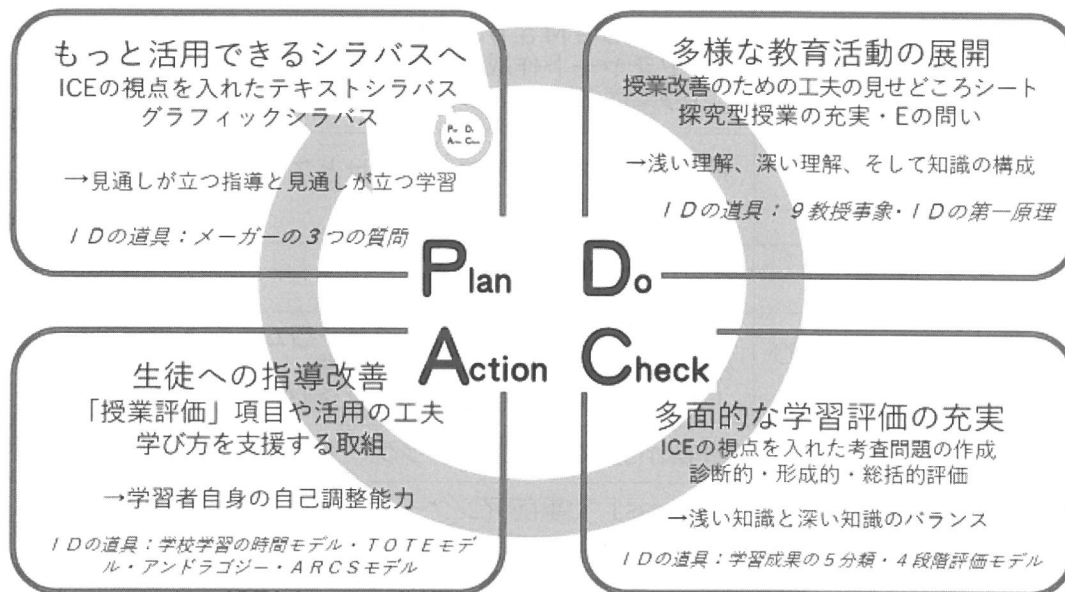
サイト内「シラバス」のタブでは、令和3年度から google スプレッドシートで作成し共有ドライブに保存する取組を開始した様式が提示されています。目標・評価の部分に I C E の視点を加え、「履修上の注意および学習上のアドバイス」の部分にグラフィックシラバスを入れる形式としています。

令和2年度 SSH 部・授業開発部 職員研修 シラバス

<p>概要</p>	<p>SSH 第4期申請における今年度の到達目標は、「主体的・探究的に学ぶ手法を探究活動、授業の中で実施し、ICE を踏まえたルーブリックを用いて評価することで、主体的・探究的な学びにおける指導と評価の一体化を目指す。探究科目と研究テーマを共有する。Can Be Map 等の手法を用い、生徒の思考を深めるとともに、仮説設定能力が高まったかを二高 ICE ルーブリックにより検証する。」である。</p> <p>これまで、教育をより効果的・効率的・魅力的にするための方法論であるインストラクショナルデザイン（以下、ID）を基に、10の理論の中から適用を促進する書式「授業改善のための工夫の見せどころシート（以下、見せどころシート）」を活用することで、課題解決の糸口とし、事例を積み重ねた。その取組は、授業改善へ向けて①IDの視点での改善、②ICEモデルの活用検討、③ICTの活用へ向けて書式記入を取り掛かりとした活用実践である。今年度は、見せどころシートにおけるEの問いを磨くことを目標に、実践を積み重ねていく。</p>
<p>目標</p>	<p>(1) ICEモデル・ID・ICTがどのような場面でどのように活用できるかを「授業改善のための工夫の見せどころシート」で全員が例示できる。</p> <p>(2) 「見せどころシート」におけるEの問いを磨くことを目指し、教科内での協議、主体的な学びフォーラムでの協議を通し、適切に適用することができる。</p> <p>(3) Eの問いを磨く方法として、「Can Be Map」を授業で活用できる。</p>

第二高校探究型授業開発のPDCAサイクル

～「みつめる力」「きわめる力」「つなげる力」の向上～



<p>年間を通しての取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> * ID/ICEの理解を深める。 * 生徒を「自立した学習者(learner)」にするため、どう支援するか？休校期間中の工夫を振り返り、オンライン授業（オンデマンド・リアルを組み合わせ）での工夫の設計を考え続ける。（オンデマンド：非同期型/リアル：同期型等の組み合わせ、オンラインツールの組み合わせ） * ティーチングポートフォリオチャート作成（以下、TPチャート）取組を振り返り（メタ認知）と共有する。 * Can Be Mapに取り組む。
------------------	--

方法	年度当初	事前課題	年間シラバスの視覚的な見取り図「グラフィックシラバス」を作成し、教科の年間シラバスに併記してください。
		参考動画	授業改善の工夫の参考として、過去お知らせした動画です。御活用ください。 * IDのワークショップ動画 ICU日本語教育研究センター主催ワークショップ 動機を高める授業と教材作成－インストラクショナル・デザインの手法を生かして－ * グラフィックシラバス関係動画 東京大学ファカルティ・ディベロップメント（インタラクティブティーチングより「もっと使えるシラバスを書こう」）
	1学期	5/26・28 (2分割実施)	* 探究型授業等についての共通理解 * Formsで作成した「IDの前提（高校版）*」に取り組む(1回目) * 思考を深めるC/Eの考査問題作成（評価問題） * 「授業改善のための工夫の見せどころシート」改善点
		事後課題	* 「学習設計マニュアル」活用ワークショップ 1年生GR/A S/S Sで実施の内容を体験・第3章を読んでForms投稿
		事前課題	* CanBeMapの取組（1学期間で各教科で1回実施）
		7/*	* 職員研修ワークショップ 「学習設計マニュアル」活用ワークショップを計画（部会での実施に変更）
		事後課題	「Forms」で振り返りアンケート
	夏季	8/7	* CanBeMapの情報交換会 * TPチャート作成（今年度分をデジタル版で作成） （感染症予防のため、オンラインでの形式で実施）
	2学期	事前課題	* 授業改善のための工夫の見せどころシートを全員作成し、教科会で検討する。
		各教科会	各教科会内で継続検討
		主体的な学び フォーラム	オンライン「主体的な学びフォーラム」における授業や考査問題等を通したICEモデルの理解促進。 「IDの前提（高校版）」に取り組む（2回目）
		事後課題	「Forms」で振り返りアンケート
	3学期	事前課題	「Forms」で事前アンケート
		3/3	SSH 研究成果発表会（熊本城ホールで開催）
		事後課題	「Forms」を使って振り返りアンケート

* IDの前提 QRコード



令和2年度職員研修

令和2年5月26、28日実施

司会：授業開発部（西阪先生）

- 1 探究型授業等についての共通理解 (SSH部)
「3年次見せどころ設計マニュアル」を使って
- 2 「IDの前提（高校版）」に取り組みましょう (授業開発部)
職員研修シラバスの最後に記載のQRコードにアクセスし、投稿してください。
- 3 思考を深めるC/Eの考査問題作成について (教務部)
* 本校出題例 見せどころ設計マニュアルp42～56
* 他校出題例 HP マナブコラム掲載分に記事もあります（6月公開予定）
- 4 「授業改善のための工夫の見せどころシート」の改善点等について (授業開発部)
* 資料1：第二高校探究型授業設計・カリキュラムマネジメントの取組
* 資料2：令和2年度SSH部・授業開発部 職員研修シラバス
* 資料3：授業改善のための工夫の見せどころシート New フォーム
* 資料4：授業改善のための工夫の見せどころシートの記入

【職員研修シラバス内の参考資料等】

- CanBeMap ・見せどころ設計マニュアルp58, 59
 - ・他校の実践例（プリントで配付）
 - ・本「生徒も教師も楽しめる問づくりの実践」p145～148
- OTPチャート 7月にClassiへフォームと動画アドレスを送信予定
- グラフィックシラバス ・見せどころ設計マニュアルp33～39

新着任の先生は、いずれかに御参加ください。

2020.4.17

10:00~11:00 or 14:00~15:00

於：アクティブルーム

御参加の先生は、個人の携帯をご持参ください。

授業開発部 ICE・ID カフェ

1. ICEとは、IDとは

*ともに、教科を越えて活用できるツールです。

* Ideas (知識)、Connections (つながり)、Extensions (応用・発展)
フレームワーク、どこにでも使えるところが長所 設計マニュアル p9

* IDは、インストラクショナルデザインの頭文字
日本語になおすと「授業設計」と訳されますが・・・設計マニュアル p40

定義

教育活動の効果と効率と魅力を高めるための手法を集大成した
モデルや研究分野、
またはそれらを応用して学習支援環境を表現するプロセス

* 授業デザインの工夫を加える応用問題として

「授業改善のための工夫の見せどころシート」 設計マニュアル p42
「《生徒主体の学びのデザイン》」がなされているかを問う授業振り返り」

このような状況であるからこそその工夫を！

* 教科領域を網羅しなくてはという囚われから思考を解放し、
生徒の学びが豊かになる工夫をしていきましょう。

2. 様々なアプローチの準備・挑戦

* グラフィックシラバスを動画で 設計マニュアル p20

* Forms に挑戦しましょう 設計マニュアル p22

* Zoom に挑戦しましょう

* 様々なものを組み合わせ、生徒にフィットした授業計画を工夫していき
ましょう。

教室設置プロジェクターのさらなる活用に向けて

情報科・授業開発部・SSH部・ICT活用係

1. 目的

プロジェクターの教室設置という県下でまれな状況であることは、多様な実践を行う必要があると考えます。そこで、一層可能性を広げるために活用を目指して zoom 接続をテストし、活用促進を目指します。また、ICT 活用力向上を目指し、一人でも多くの職員が教室から web 接続した画面を投影できるようになることを目指します。

なお、既に1年生は10クラスを zoom でつなぎ、授業実践を行っています（水曜日7時間目 GR/AS、6月3日から4回実施済）ので、2・3年生のクラス対象となります。

2. 日時

(1) 練習会1（2・3年生）

2020年6月29日（月）8:35～8:50（課外等のためホームルームの時間に設定）

（どのパソコンを使うか決める。決めたものを変えない。1年生が使っているもの以外を選んで、使ったものにクラス名を大きな付箋で表示しておいてください。）

(2) 練習会2（全学年）

2020年7月1日（水）16:35～16:45

（生徒用タブレット31台稼働中ですので、ぎりぎりではありますが可能です。）

(3) 実践1

全学年：2020年7月2日（木）15:45～16:35

（立会演説会を zoom で実践する。立候補者が3人と少ないため、多少接続に時間がかかっても実施が可能である。）

【不都合があった時の対処案】

- ① アクティブルーム、大会議室にも接続しておき、そちらへ不通クラスの生徒を移動させる。
- ② 上記2つの部屋に入りきれないほどのクラスが不通だった場合、校内放送に切り替える。

3. その他

(1) クラス別に zoom による画面放送ができることはコロナ感染症対策になります。

(2) 30クラスが zoom でつながることで可能になると予想される実践例

* 始業式・終業式等

* 卒業式 生徒は3年生教室、保護者は2年生教室にわかれて入室してもらい、教室をつないでおこなう

* 講演会・学年集会 教室なので、メモを取ることも容易

（ほかにも可能となることがあると予想されますので、アイデアをお寄せください。）

第二高校主体的な学びフォーラム実施要項

1 目的

本校SSH研究実施計画では、「みつめる力」「きわめる力」「つなげる力」を高めるために、すべての教科で探究科目を開発・実施することを目的としている。また、『第4期では、全教科・全領域にわたり全ての教師が探究活動の指導を行う。生徒が主体的に学ぶ上で必要な指導法について、授業開発部が中心となってモデル授業の開発を行うことで、全校で探究型授業を推進していくことができる。さらに二高ICEモデルの開発に取り組み、同一指標での評価を全ての授業に応用すれば、生徒の「みつめる力」「きわめる力」「つなげる力」の向上が期待できる。』と設定している。

本校では、教科を越えて使えるツールとしてインストラクショナルデザイン (ID) を用い、授業改善の工夫を続けており、平成30年度から「学び方の学び」を生徒自身が学んでいく取組を「学習設計マニュアル」を中心に行っている。明石工業高等専門学校は執筆者の一人である竹岡篤永先生が授業で同書を使って実践中であることから、遠隔地の学校をつなぎ協働的に学ぶ機会と著者の先生方による講演会を設定することで、一層の深い学びにつなぐことを目指している。

2 期日・日程 (予定)

令和2年10月9日 (金)

午前：学校オンライン交流授業 (zoom を通した授業見学)

(1) 1・2年生対象

遠隔地の他校との zoom での交流授業「学習設計マニュアルを使って」

Classi の投票ボックスを使ったリアルタイムのデータ共有をしつつ学びを深める体験授業。

(2) 全学年対象 (zoom 講演会)

美馬のゆり先生・鈴木克明先生によるコラボ講演会

「“学び方を学ぶ”ことを学ぼう！」

午後：IDカフェ～ARCSモデルを中心に～ (校内職員研修を兼ねる)

(1) 開会セッション 司会：授業開発部長 13:30～(5min)

①本校校長あいさつ ②鈴木克明先生御紹介

(2) 1グループ5人のグループに分かれてワークショップ

各分科会司会：第二高校授業開発部・SSH部担当者

13:35～14:55 (80min)

①エピソードの紹介 (一人2分×5人=10分)

②工夫をARCSモデルにあてはめて分析したことを共有 (一人1分×5人=5分)

③共有したなかで、迷ったことや質問をグループから2つ挙げる

(Office365teams「チーム二高57・58・59期」ファイルのExcel「質問シート」に記入・共有：15分)

④鈴木先生に質問タイムI (20分)

⑤学習者中心の工夫となるためにARCSモデルを使って、更なる工夫を加えるなら？ (思考時間・同質問シート記入：15分)

⑥考えた工夫を共有し、鈴木先生からコメント・質問タイムII (15分)

(3) リフレクションセッション (ブレイクアウトルームを再編成する。)

司会：授業開発部長、SSH部長

15:05～(25min)

(4) 閉会

15:30

3 オンライン参加者

本校職員・県内教育関係者 (先着30人限定?) (午前中視聴のみ)

*午後の職員研修部分は、各自の校務用PCで参加とし、分科会はブレイクアウトルームとして実施する。(事前に班編成をします。出張等の方はお知らせください。)

*現在、1グループ5人、全体で18グループの設定見込。

なお、熊本県下への呼びかけ30人定員で呼びかけ、合計90人の予定です。

フォーラムまでをお願いしたことや予告について

- 二高パターンランゲージ作成へ向けたエピソードを記入したプリントの提出をお願いします。午後の研修は、そのプリント内の工夫について、「今後ARCSモデルの視点で工夫を加えるならばどうするか？」をグループワーク、その中から鈴木先生へ質問という流れになります。各自お手元にコピーをお持ちください。トレーへの提出締切 9月30日（コピーはお手元をお持ちください。）
- 今年度は、これまでに実施した授業が含まれる「見せどころシート」の作成と、その単元での「単元を貫く問い」に関する考査問題の提出をお願いします。（指導と評価の一体化を示すセットになります。）
提出締切 後期授業研鑽月間終了時（別紙参照）
- 連携校である明石高専の授業時間は9:00～10:30です。（1年生1クラス予定）
- 当日は金曜日1～4時間の予定です。昼休み45分確保のため日課は変則です。朝読書をカットでお願いします。
朝からZOOMを接続したままにしておくため、タブレット電源コードの教室への持ち出し、電源接続をお願いします。

	3年生日程	1・2年生日程
SHR	8:30～8:35	8:30～8:35
1限目	8:40～9:25	8:40～10:30
2限目	9:35～10:20	(休み時間10:30～10:40)
3限目	10:30～11:15	10:40～11:15
4限目	11:25～12:30（1～3年生全クラス オンライン講演会）	
掃除等	12:30～12:45（掃除） 12:50～13:40（昼休み）	12:30～12:45（掃除終礼）
5・6限目	13:45～14:35（自学） 14:45～15:35（自学）	生徒は原則午後放課
	3年生は課外実施	

- 10月9日は、3年生の授業はそのまま1～3限目を実施。1・2年生の1～3時間目の交流授業は、担任・副担任の先生で連携して担当していただき、授業を生徒と一緒に学ぶ気持ちで参加していただきますようお願いします。
- 外部参加者については、コロナ感染症予防のため、zoomを通したオンライン交流授業視聴のみとします。）

午前部 学校オンライン交流授業 進行表

第二高校主体的な学びフォーラム 午前部：学校オンライン交流授業

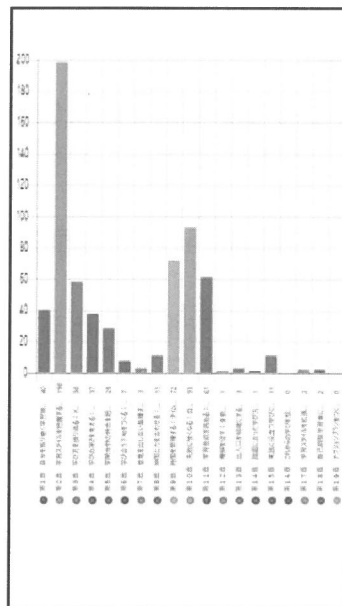
【タイムスケジュール】

・下記は2時間での作成を想定した、進行表の案です。

開始	経過時間	所要時間	項目	カテゴリ	内容2	時間	取組項目	担当	具体的内容	鈴木先生・美馬先生の動き	明石高専の動き	第二高校担任、副担任の動き	備考	
8:30	0:00	0:30	1	事前	接続テスト	30min	接続テスト	田尻	【接続確認】 ・音声チェック (鈴木先生・美馬先生・明石高専) ・音声の戻り込みチェック ・映像チェック ・8:40～第二高校1・2年生 H R 接続チェック	ZOOM入室	ZOOM入室	1・2・3年担任・副担任 ZOOM入室 3年生は接続のまま画面音声をOFF	<事前取組> 第二高校1・2年生へアンケートを実施しておく 鈴木先生・美馬先生・明石高専へ、アンケート項目・結果を共有しておく (授業開始・SSHの中で配置を決めておく)	
9:00	0:05	0:03	2	はじめに	開会	3min	開会あいさつ		【事前準備】 ・第二高校は、ホームルームのPCに接続は生運用タブレットで入室する。 ・本校のzoomの参加者は「第二1-1」という形式で登録する。 ・ヘッドセット (ヘッドホンマイク) を使う？ ・本校山本校校長先生から、講師の先生紹介 ・鈴木先生・美馬先生・明石高専竹岡先生 簡単な自己紹介			司会：() 挨拶：山本校校長先生 説明：()		
9:03	0:08	0:05	3	はじめに	講師紹介	5min	講師および交流学校紹介		・本校山本校校長先生から、講師の先生紹介 ・鈴木先生・美馬先生・明石高専竹岡先生 簡単な自己紹介	一言御挨拶いただく	竹岡先生に一言御挨拶いただく。 可能な代表生徒さんに挨拶していただく	各クラスへ声掛けし、生徒たちに手を振ってもらう	一言自己紹介コメント	
9:08	0:13	0:10	4	学校紹介	学校紹介	10min	学校双方の簡単な学校紹介	田尻	「学習設計でデジタル」を使った取組状況の相互紹介 ・明石高専、熊本第二の前で紹介してもらえ。		生徒さんに紹介していただく (3分程度)	1年生の代表が紹介する (3分程度)	説明者：明石高専 ()、熊本第二 () 質問があったらチャットでポストに質問することを言うておく	
9:18	0:23	0:02	5			2min	アンケート結果概要の紹介	田尻	アンケート内容の共有 ①面白かったところ ②取り入れたところ ③質問したいこと	適宜コメント・感想を述べていただく				
9:20	0:25	0:15	6	データ共有①	データ共有②	15min	“投票ポスター”を使った共有 ①面白かったところ		・“投票ポスター”を使う ・本校生は投票IDを入力すると、投票できる ・明石高専は、QRコードを共有することも、投票できる 面白かった章の練習問題から抜粋項目 (2～3項目) の共有を行う ・共有後は鈴木先生・美馬先生からコメントをいただく	適宜コメント・感想を述べていただく	本校生は、自分の携りから、当日伝える部番号を入れて投票する	・共有したい項目が事前にかければ、それを取り上げる		
9:35	0:40	0:05	7		各クラス内での生徒同士のシェア	5min			・隣の生徒同士、結果の感想などを共有する		各教室でシェアする	#時間調整あり		
9:40	0:45	0:15	8	データ共有②	データ共有③	15min	“投票ポスター”を使った共有 ②取り入れたところ		・取り入れたことを多かった項目を、どの程度取り入れているかを投票ポスターで共有する ・共有後、取り入れたらと思うか等を、御ねる ・共有後は、鈴木先生・美馬先生からコメントをいただく	適宜コメント・感想を述べていただく	生徒さんたちに、当日伝える投票ポスターのQRコードから投票していただく	本校生は、自分の携りから、当日伝える部番号を入れて投票する		
9:55	1:00	0:05	9		各クラス内での生徒同士のシェア	5min			・隣の生徒同士、結果の感想などを共有する		各教室でシェアする	#時間調整あり		
10:00	1:05	0:25	10	全体共有	次のワークの説明	25min	③質問したいこと		・事前に回収した質問をもとに、講師の先生に回答してもらって、それぞれのコメントから、再び生徒の取組を“投票ポスター”で共有する ・生徒から講師の先生、交流していた第二高校のみなさまへ御挨拶				・各クラスからのリアルタイムの質問は、zoomのチャットで回収する	
10:25	1:30	0:05	11	講評	講評	5min	第二高校生徒からの講評		・明石高専はここまで終了 ・鈴木先生・美馬先生は、ここから11:25まで休憩時間 (接続確認・画面OFF)	画面音声OFF 休憩時間	ZOOM接続終了			
10:30	1:35	0:10	12	終了	終了		第二高校生徒は休憩							
10:40	1:45	0:35	13		振り返りのため声掛け	35min	第二高校生徒・振り返りの時間 【著者の先生方、明石高専との交流学習を終えて「振り返り」のため声掛け		・第二高校1・2年生は、A4用紙に振り返りのため声掛け (放送で声掛けしながら進行することも可能)			1・2年生は、たまごを振く (約1.5分) その後ペアで共有をする時間を充てる。英語での紹介を行う	・第二高校1・2年生は、当日の2限目と最後の休み時間までがオンラインの時間となるため、終了後に1.0分時間を設定して休み時間を取る。そのため、3時間目は1.0分遅れてスタートし、3.5分授業となる予定。 ・A4.1枚に振く (当日配布するようクラス担当欄に配付予定) ・名前ペンやボールペンで振く ・zoomは接続継続 ・各 H R の画面、音声はOFF	
11:15	2:20	0:10	14		3年生教室zoom接続確認		3年生10クラスが、画面ONにする							・接続状況確認 (授業開始・SSHの中で配置を決めておく)
11:25	2:30	1:00	15		鈴木先生・美馬先生コア講演 演会開会	60min	鈴木先生・美馬先生による対談形式の授業感想 各先生からのコア講演 各先生への質問コーナー							
12:25	3:30	0:05	16		生徒から講評	5min	生徒からの講評		生徒はclassiで振り返りの記述を行う					
12:30	3:35	0:15	17	終了	終了									

① これまで読んだ部分で
もっとも面白かったところは
何章？

授業で読んだところでもよい。

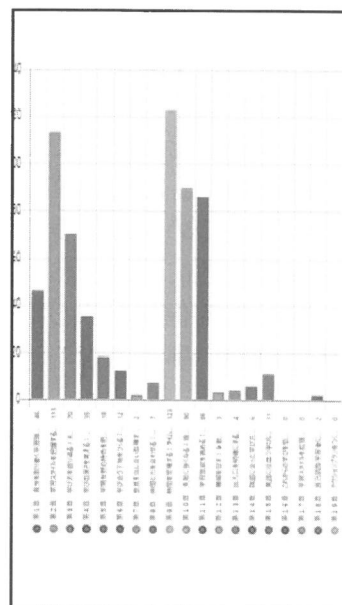


1

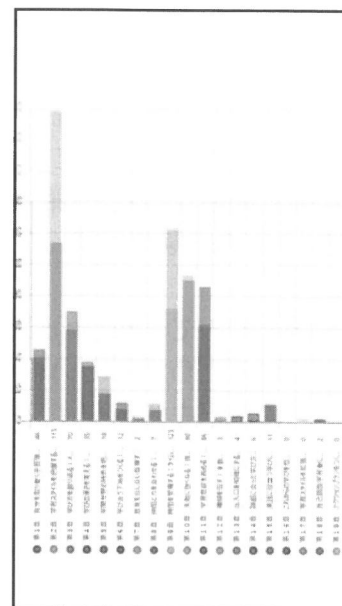
② 自分のものとして
取り入れたところは何章？

授業で読んだところでもよい。

3



4



5

③ 著者の先生方へ質問

(1) 知りたい学習法についての質問
 (2) 困り感・解感解消へつながる質問
 (3) 先生方の学びについての質問

6

1 学習設計マニュアルに関するアンケートから 2 ～鈴木克明先生・美馬のゆり先生へ質問したいこと 2年生編～

3 <面白かったこと>

- 4 ● 自分の学びをデザインすることの必要性について学ぶことができ、これまでの自分の学びを振り
5 返り、今後の学びとの違いに気づくことが出来たから。また、大学での学びについて広い視
6 野を持つことが出来たから。(第1章)
- 7 ● 今までに考えたこともなかったことが書いてあったから(第2章)
- 8 ● 学ぶ側の意識で、自分が実践していなかったことが多かったから。(第3章)
- 9 ● メタ認知と聞いて、あまりポジティブな話題ではないと思ったけれど、実際は自分自身をコン
10 トロールでき冷静な判断や行動ができる能力だということを知って、想像と違った意味があり、
11 面白かった。(第3章)
- 12 ● 読む時には、ただ読むのではなく、メタ認知(自分の認知についての認知)をして、目的を考え
13 て呼んだり、内容の推測をしながら読むことで自らの学びを深めることが出来るというのを知
14 ることができて面白かった。(第3章)
- 15 ● 知識は覚えるものか、疑うものであるかというところ。2年になって倫理を勉強し出して、同
16 じようなことを言う偉人がたくさん出てくるから。(第4章)
- 17 ● ベリーの認知的発達段階説から、自分がどんな考えを持ってるのか?何を期待しているのかと
18 かを整理する事が出来たこと。自分が普段は考えてないけど改めて整理してみると共感できる
19 ことが多く面白かった。(第4章)
- 20 ● 受講者4人の経験談が読んで面白かった。知識についての議論が読んで面白かった。(第
21 4章)
- 22 ● 本章を読んでみて、新しい知識を「覚えるために」学んできたことを振り返って授業や受験勉
23 強でこれからどう学んでいくかを考える良い機会になったから。(第5章)
- 24 ● 個人個人の自己主張にタイプがあることや、自分がどんなタイプなのかを知ることが出来て面
25 白かった。グループワークが苦手だったから、学びに上手く参加するためにどのような工夫が
26 必要か知りたかった。(第6章)
- 27 ● ブレインストーミングという私も良くするものを取り上げられていて、分かりやすく面白かつ
28 たら。(第7章)
- 29 ● 多くの人の勉強のイメージといえば1人で集中して参考書をひたすら解いているようなもの
30 だと思います。しかし、学校でもある通り、グループ、友達と勉強するとはメリットも多いの
31 です。実際、1人でずっと考えていて、わからなかった時、質問に行ったら、すぐ解決してそ
32 の後は気が楽になるというような場面は多くの人を経験しているとおもいます。そのことを改
33 めて考えさせられた章でした。とても面白かったです。(第8章)
- 34 ● 忙しい高校生活を送る中でこのお話を勉強した時、時間はほんとに大事なものだなどと改めて気
35 付かされました。ただ、がむしゃらに頑張るのもいいけどまずは今自分に与えられている時間
36 をしっかり見つめどのように使うかを考える必要があるなと思いました。(第9章)
- 37 ● 自分が時間管理に弱いから。学習率 = $\text{time spent} / \text{time needed}$ の所(第9章)
- 38 ● 私は、自分に自信があまりなく、またプレッシャーに弱いため失敗が多い。この章を読んで、
39 別に失敗は悪い事ではなく、援助要請をすることが大切だと気づいたので心が軽くなった。(第
40 10章)
- 41 ● 自分で考えるのがたのしかった!(第11章)
- 42 ● 出入り口を確認する三つのテストの内容が奥深く面白かった。(第13章)
- 43 ● 勉強の効率の良い方法(第14章)
- 44

- 1 ● 学んだはずなのに使えないことが今までもあったりして、それは日頃から日常生活に置き換えて例を考えたりすることで、現実世界でどのように役立つかイメージできるようになるということが分かり、納得したから。(第15章)
- 2
- 3
- 4 ● 社会での学ぶ段階的なものや制度についてなど、色々な章の中で自分にとって一番実用的で役立つことを知ることができ、また自分の知らないことも知れて面白かったから。(第15章)
- 5
- 6

7 <取り入れたこと>

- 8 ● 授業中は、先生が言ったことは聞くだけで黒板に書かれたことだけをノートにメモしていたが、板書以外にも大事だと言われたことや、自分の思ったことはメモするようにした。(第1章)
- 9
- 10 ● 高校生になってから、自分の学習スタイルを確立することに悩んでいた時期でした。学習スタイルを見直すために、まず生活スタイルを見直さなければならないことを知り、生活スタイルを見直しました。そのため、学習スタイルを見直すこともでき、自分に合ったスタイルを取り入れることができました。(第2章)
- 11
- 12
- 13
- 14 ● 自分を客観視する事ができてよかった。努力せずに成果をあげたい。という怠け者の思考回路をしていることは自覚していたが、数値やグラフに表されたことで改善したいと思うようになった(第2章)
- 15
- 16
- 17 ● 教科書をただ読むだけでなく、自分なりに言葉を言い換えて内容を自分の言葉で説明できるようにしました。(第3章)
- 18
- 19 ● 学校の授業にとどまらず、他の分野に活かしていくことが大事だということ。(第4章)
- 20 ● 嫌いな教科を最初から嫌いと思って接するのではなく、こんな事に気づけたと感動を持って勉強するようにした事(数学が解けた時など)(第5章)
- 21
- 22 ● 知識を詰め込むことが勉強の目的になっており、数学などの理解が浅かった。しかし、この章の内容から覚えるだけではない学びの深さを意識して勉強するようになりました。(第5章)
- 23
- 24 ● 自分に足りていない自己管理をする事ができるようになるように睡眠を十分取ったり学習時間を増やす事ができるように九章の文章や表を活用して自分の生活習慣を改善していきました。(第9章)
- 25
- 26
- 27 ● コロナウイルスの影響で休校が続いている時に、学校がいつ再開しても万全の体制で挑めるように、学校から提案されたシラバスの元、規則正しい生活をおくれた。(第9章)
- 28
- 29 ● 自律的援助要請をすること。(第10章)
- 30 ● ARCSモデルという言葉を知り、実際に休校期間中の課題の取り組み方と照らし合わせて改善した方が良いところを考えたところ。本を読み、自分の身近なものに置き換えて考える所が面白かったし今後のためになったから。(第11章)
- 31
- 32
- 33 ● ARCSモデルを家庭科の授業やその他のことに取り入れていった結果、家での仕事などにどうやって関心を持って達成感があるようにできるのかなど考え、実際にホームプロジェクトで活用ができた。(第11章)
- 34
- 35
- 36 ● 将来教師になりたいと思っているので、参考にした。1つの授業でも、学習の目標の確認、今まで習ったこととの関連を考えながら新しい事項を知り、練習して自分で解けるようにして応用がきくようにするまで、たくさんのことをしなければならなかった。(第12章)
- 37
- 38 ● この章では実践に役立つ学びということで私はIDの第一原理を少しずつ取り入れている。特に、学習においては活性化と応用を使えるようにしている。ただ解ける問題を解いていても更なる向上は見込めないのも特にできていないと感じるこの2つの問題をとく時に積極的に頑張っている。(第15章)
- 39
- 40
- 41
- 42
- 43 ● 章を学んだ後に、章に出てきた「正統的周辺参加」と「認知的徒弟制」というワードを自分なりの言葉で表してみるという活動をしました。それが楽しかったし、加えて、単語の意味や社
- 44

- 1 会上でどのような意味合いを持っているかなども知ることが出来て、よりワードの意味を理解
2 することが出来ました。(第15章)
- 3 ● 今学んでいることがどういう時に役に立つのか分からずにただ授業に参加していた。しかし、
4 この章の現実に役に立つ自分の学びを設計するという考えを知り、過去の知識と関連づけたり
5 するようになった。(第15章)
- 6 ● 部活動で先輩にルールや技術の指導などをする際に、言葉だけで説明するのではなく、実際に
7 自分が手本を見せて、その後先輩にもやってみてもらう。ということを実践した。(第15章)

8

9 <質問したいこと>

10 【本を作ったことに関すること】

- 11 ● なんでこのような本を書こうと思ったのかを教えてください。(多数)
- 12 ● また情報としてはどこから主に収集したのですか
- 13 ● 1番大事だと思う章は何か
- 14 ● 他に出版なさっている本を御紹介してください。

15

16 【先生方自身の学びについて】

- 17 ● 学び方を学んだのはいつですか？
- 18 ● 失敗に強くなるために、先生がされていることはなんですか。
- 19 ● 先生の人生の中で一番の失敗はなんですか。
- 20 ● タイトルには「おとな」になるためのインタラクショナルデザインとありますが、先生が考える
21 「おとな」とはどのようなことかを知りたいです。

22

23 【学習等に関するアドバイス】

- 24 ● 10章 私は先生方の本を拝読させていただき、失敗を成功に結びつけるためには、失敗して
25 も次に気持ちを切り替えることも大切なのではないだろうかと考えました。しかし、私自身は
26 とてもこれが下手なので、どうすれば上手くなるか知りたいです。
- 27 ● 自分は弁護士を目指しています。しかし、司法試験に受かるのは日本で1%もいません。大き
28 い目標であるが故に相当なリスクを負っていると思います。現在日本では司法試験に受からず、
29 ずっとニートのような生活を続けている人。いわゆる弁護士ニートが増加しています。正直と
30 ても不安です。弁護士になってからも相当厳しい日々になると思います。弁護士になれる
31 のか。そんなことばかり思ってしまいます。このことについて意見を頂ければと思います。
- 32 ● 比較的多いグループで話し合う際、なかなか意見を出してくれないし、重い空気があって話が
33 切り出しにくかったり、長続きせず終わることがよくあります。意見を引き出すにはどうした
34 らいいでしょうか。
- 35 ● なぜ学び続けるのでしょうか。先日読んだ別の本には、大学に入ったら自ら問いを立てて学ぶ
36 こと、文理の壁を越えて自分の専門外のことも積極的に学ぶことの重要性が書いてありました。
37 いわゆるリベラルアーツというものに対しての先生のお考えを伺いたいです

38

39 学習設計マニュアルに関するアンケートから

40 ~鈴木克明先生・美馬のゆり先生へ質問したいこと 1年生編~

41 <全体感想>

- 42 GRは自分の性格など、自分でも気づかなかったことなどに改めて深く考えさせられ、それを友達
43 (同じ学年の人)と共有できるいい機会であり、国語や数学などとは違った思考がはたらくのでとて
44 も楽しいです。コロナでなかなかほかのクラスと関わりがない中、ほかのクラスと自分の気持ちを

1 共有し合うなど関わりをもてるいい授業だと感じています。

2 <面白かったこと>

- 3 ● 「不可逆的な出会い」が面白かった。今まで、「コレを知っちゃったからには、もう知る前の自分には戻れないよなあ」とよく思っていた。だけど、この感覚を説明するのは難しく、親も理解してくれなかった。そんな中、この感覚のことを「不可逆的な出会い」と言うことで初めて自分の中にすんなり入ってきた。この感覚が、自分だけのものでは無いと分かった。(第5章)
- 4 ● 最初の文から、共感することが沢山あったからです。その教科を習っているとき、ああ！わかる！と思ったら、好きになります。今、数学がその状況で、他にも共感するところがあったのでこの章を選びました。(第5章)
- 5 ● zoom を使って1つの問に対して、ほかの人たちはどう思っているのか、知ることが出来て面白かった。中学校ではこういうところをしたことがなかったので新鮮だったから。また、クラスの人たちとなんでその答えにしたのか理由を聞くと、自分と全く違う考え方の人もいて驚きもあったから。

15

16 <先生方へ質問したいこと>

- 17 ● 先生がこの本を書かれた時に先生自身の考え方を変えた章はありますか。
- 18 ● 第四章の認知的発達段階説についてなのですが、段階を変化させるためにどのような経験をし、受け入れることが大切なのでしょう。
- 19 ● 四章：学生視点で見たペリーの認知的発達段階説について、次の段階に進むための詳しい方法を知りたい。自分の立ち位置は分かるが、その先どうすればいいかがいまいち分からないままだから、そこをはっきりとさせて繋げていきたい。
- 20 ● 学校は勉強を教える所なのに勉強の本質を教えていないとあったので、なぜ、本質を教えていただけなのかや本質とは何か教えて欲しいです(というのは、絶対主義段階ですね。)
- 21 ● 第5章、大学では、異なる深さで考えて学ぶことが要求されるのですが、この10の質問の中で一番大切なものはなんですか？もっとも重要になるのでしょうか、自分は36点でして、基準として何点がベストでしょうか
- 22 ● 知識詰め込み方の学習ではなく、多くを学びとるための学びは、とても時間がかかり、今の高校生にはとても難しいです。なぜなら、先生方の評価が知識詰め込み方の学びによるからです。自分たちで学習の面白さを見つけるためには、ある程度評価を捨てるべきなのでしょう。
- 23 ● 得意を伸ばすのと苦手をなくす、優先順位をつけるとしたらどっちが上ですか？
- 24 ● 第10章 失敗に強くなる 私は失敗したときにいつも時間が解決してくれると思ってました。ですが、すぐに次に向かうことが出来る時もありましたができない時もありました。すごく極端な質問ですみません。先生は失敗に強くなるために何をしていますか？
- 25 ● 先生も仕事や日々の物事にやる気が起きなかったときはどうしているのか？
- 26 ● 質問…というか、意見を聞きたいです…。私みたいに、聞いて学習したり、見て学習した方が内容を定着させるのに向いているという人もいますかと思えます。私は、本当に重要だなと思うものしかメモをしません。(理解出来ているものはあまり書かない)板書すると、どうしても書くのに一生懸命になってしまい、内容が入って来ないのです…。過去の事なのですが、ノート点検で良い評価をあまり貰えないという事がありました。ノートはあくまで自分のものであり、自分が自由に書き込んでメモをして活用するものだと思っています。レポートでもないのに、他人に見せるものでもないかと。ノートで評価をとることについて、どう思いますか？

43

44 (紙面の都合により1年生の<取り入れたこと>は省略。<面白かったこと>も3点のみとしています。)

「学び方を学ぶことを学ぼう ～主体的な学びフォーラム」報告

SSHニュース 2020年10月10日

https://kumamoto-d2hs.ed.jp/bbs/board.php?bo_table=ssh&wr_id=96

10月9日は「主体的な学びフォーラム」を全校上げて行いました。

今日の講師は第二高校学校設定科目 GR（グローバルラーニング）、AS（アートサイエンス）のテキストでもある「学習設計マニュアル」の著者鈴木克明先生（熊本大学）、美馬のゆり先生（公立はこだて未来大学）です。オンラインでの講義です。

さらに明石工業高等専門学校1年生の皆さんとの交流授業も行われました。

オンラインで学校行事を行う経験を何回か重ねて、職員・生徒も接続やトラブル対応に慣れてきました。（こんな積み重ねが、非常時に生きると思います。）

1 時間目「本校1・2年生と明石高専との連携オンライン授業」

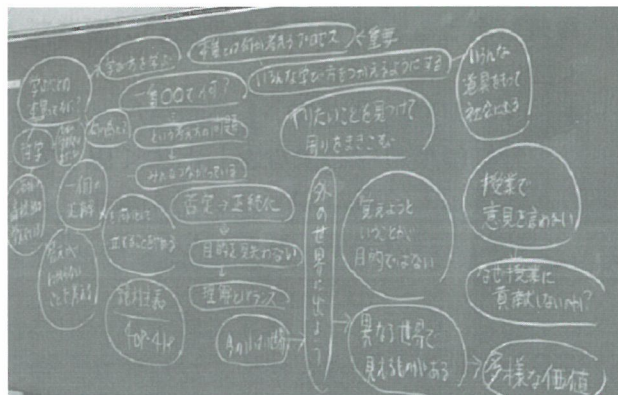
2 時間目「生徒間の共有の時間」

3 時間目「二高生からの『学習設計マニュアル』に対する疑問を著者のお二人に実際に応えていただく」という贅沢な企画です。

オンライン授業は味気ない印象がありますが、クラッシュの投票ボックス（クラウド型クリッカー）を活用して、明石高専や各クラスをつなぐ楽しい時間もあり、和やかなムードでした。



（卒業生の「大学でのオンライン授業は疲れる」という話も実感できました。とにかくオンライン講義は集中力がいらします。）



3 時間目の鈴木先生、美馬先生の講義は「学ぶということとはどういうことなのか」をテーマに、学習設計マニュアルを基にレクチャーがありました。

オンライン講義を聞きながら、思いついて黒板にメモしてみました。グラフィックレコーディングというらしいですね。

午前中の学習を通して、二高生は「学習設計マニュアル」の「学生視点で見たペリーの認知的発達段階説」でいうところの「絶対主義段階」で課題を持つ生徒がいるということがわかりました。

絶対主義段階とは「知識は正しいか誤りか、良いか悪いかのどちらかだと信じている（学習設計マニュアル40p）」ことで、「学習とは記憶して習得する」ことをゴールとする段階です。次の段階は「アイデアの重要性に気づく」相対主義段階、「異なる複数の視点から検討し、難しい問題を捉える」評価主義段階、自分自身の「主義」が生まれるコミットメント段階に進みます。

生徒の身近な例でいうと、大学受験においては一問一答の記憶力のみをという問題より、その人の思考力を問うものになります。受験だけとて、1年生のうちから、答えのない問い（第二高校 ICE モデルでいうところの E レベルの課題）に挑戦することが必要であることがわかります。

午後は、先生たちの研修でした。職員同士を zoom でつなぎ、全体での研修、ブレイクアウトルーム機能を活用したグループワークでした。zoom の画面共有の機能やチャットなども活用し、途中音声の問題などありましたが、2 時間の研修を行いました。

個人的な感想ですが、複数の教科の先生と協議して、生徒たちの現状や休校中の工夫などを共有したことで、生徒がもっと主体的に学ぶことができる工夫と仕掛けをそれぞれが行っていることがわかり、共有できる貴重な機会となりました。「生徒の主体的な学びを導く」には「生徒に時間を返す」ことが必要で、そのためには「指導者同士が学習の到達目標と評価を明確化、共有し、指導方法を工夫する」ことだと、それぞれの教科の立場で実感できたと思います。「学習設計マニュアル」の ARCS モデルでいうところの C (Confidence) ～「やればできそうだ」につながるよう課題の量と質を整えるといいのではないかと、結論にたどり着いた研修でした。

生徒たちが社会に出たとき、災害以外にも一筋縄ではない困難があったとしても、よりよい人生をつかむことができるよう、生涯にわたって主体的な学習者になることができるよう、今後も実践を重ねていきたいと思っています。

主体的な学びフォーラム 学校オンライン交流授業 および 全学年オンライン講演会
リフレクション通信 2020.10.12

○全体の「振り返りのたまご」を書くとするなら、中心の黄身にはどんなことを書きますか？
(3年生は、コラボ講演会で最も大事だなと思ったことを書いてください。)

自分の今の状況を嘆いて文句を言うよりも、その状況下で何ができるのかを考える方がよっぽど次に繋がるし、人生が楽しくなるだろうなと思った。

失敗することを怖がって何もしないで後悔することが多くて自分でも嫌になっていたけれど、そもそも失敗という概念をなくしてしまえばいいのではとおもった。文字では簡単に書けるし、とても難しいことを言っているのはわかっているけれど、それができるようになれば失敗を失敗として認知するのではなく、成功の元として活用できると思う。

「自分に合った勉強法をすることはもちろんとてもいいことだが、先生の考えを否定するような行動はやめた方がいい」ということを聞いて、今までの自分を振り返ってみると先生の考えに不満をもちながら活動することが何回かあったなと反省しました。これから、自分に合っている勉強法をどんどん見つけて先生の考えもとり入れながらよりよくしていきたいです。

不可逆な出会い。今回兵庫県の生徒たちと2人の先生たちと一緒に交流授業をやって、先生の経験や意見を教えてくれたことがとてもいい出会いだと思います

学ぶことを楽しむ！！

学ぶことは楽しい。学ぶことを義務として考えるのではなく楽しむ。
異なる世界に見を置くことで見えてくるものがある。基準は一つではない。

「勉強し続けなければならない」ではなく「勉強したい」！ 勉強することは面白いことであり、世界が広がること。勉強をすると、不可逆的な出会いがある！！

努力を認めてもらうことはただの言い訳に過ぎないこと

学びを楽しむ感性

自分が見えている世界はとても狭いものだと理解し、もっと色々な考えに触れたいと思った。

失敗というものはなく、失敗が成功になるんだったらそれは失敗ではないという言葉を知り、私も何事にも恐れずにチャレンジしたいと思った。

勉強は楽しくすることで身につけるものだという事。今自分の当たり前だと思っていることは狭い自分の知ってる世界でのことだから、もっと視野を広げたい。

先生方は日本らしいかたにハマったような、真面目な考えではなく、アメリカのような明るくポジティブな考え方で、すごく聞いていて新鮮でした。私も新しい考え方を身につけることが出来たような気がします。とても良い時間でした。

大学教授の話はとても惹かれるものがある

評価を得るのではなく自分のためになることをしようと思った。

学びには無限の可能性がある。

知る事の喜びを感じる事が出来るようになったと思う。

著者の先生方が沢山の質問に答えてくださったことによってさらに学び方を学ぶことへの意識が深まり、考え方を広げることができたこと。

学習設計マニュアルを通しての自分自身の振り返りが少し足りなかったと思いました。今まで真剣に書いているつもりだったけど、同じ学年の中にはもっと真剣に書いてとても内容が濃い人もいて知り、もっと自分を見つめ直したいです。鈴木先生と美馬先生のお話もとてもため

<p>になるものばかりでこれから自分の生活に取り入れていきたいものばかりでした。生徒からの質問をすごく丁寧に返していて、さすがだなあと思いました。</p>
<p>なんでも絶対主義段階で判断してしまっている現状があったので、1番を決めるのではなく、それまでの過程やプロセスを大事にしようと思った。</p>
<p>本を書くときの意図をきけて本当によかった</p>
<p>自分のやり方で学習を進めるのもいいけど、先生方がどういう風に考えて授業を計画してくださってるのかを考えると、最初は私も生徒からの意見や質問を聞いて「たしかに??」って思ったけど、自分の視野を狭くしているだけだと思いました。</p>
<p>自分のものさしでは狭い世界しか見えないからもっと広く考えることが大事だと思いました。</p>
<p>失敗と成功は繋がっており、別々ではないこと。失敗をそのままにすることが失敗だということ。</p>
<p>自分はすぐ正しいひとつの答えを導こうとする絶対主義段階の人間であったので 4.ページの23番の間に答えていただいたことで本質といっても複数あってその導きのプロセスがなによりも重要であることを学んだ</p>
<p>仮に夢が弁護士なら、国家試験を合格することがゴールではなく、合格した後になにをするなどと、先を見通すことが大事と分かりました。それに、学ぶことの意味を改めて感じることが出来ました。それに、毎日の学びが大事とわかったので、これからも毎日の予習、復習をしっかりと行こうと思いました。</p>
<p>本を出しているくらいだから専門的で難しい話をされるのかとおもったけど、先生方は好奇心旺盛で色んなことに興味を持っておられてその発見を聞くのが面白かった。特に下水道の話が面白かった。</p>
<p>「学び方を学ぶ」ということは、とても大事だと思った。「人はなぜ学ぶのか？」その理由は、本当はただ単に、「おもしろいから。」ということは今まで忘れてしまっていた気がします。純粋に学びを追求することが、どれだけ大事か少しずつ分かってきた気がしました。</p>
<p>私達はまだ絶対主義段階にいと改めて感じた。美馬先生が仰られたように、相手を否定するのではなく、相手も認めながら自分の意見も持って、素直に生きていこうとおもった。</p>
<p>美馬先生のように、好きなことをするために大学に入り直したりするなど、自分が好きなことをとことん追求することが悔いの無い人生をつくっていくのではないかと思った。</p>
<p>先生方のお話はとても心に残るものでした。</p>
<p>私達はまだ不十分で、考え方も特定の狭い範囲でしか見つめられていません。これから、もっと沢山のことに挑戦して、失敗から学び大きく成長していきたいと思いました。</p>
<p>明石高専の皆さんとの意見交流をすることで、学び方を深めることが出来た。</p>
<p>オンライン授業での、鈴木先生の話の、Bの努力を認めて欲しいことは、自分に対して甘いことを気づかせてもらいました。</p>
<p>「努力を認めてもらいたい」は甘え</p>
<p>絶対主義から早く抜け出さなくてははいけない。</p>
<p>講師の先生の話でもっと将来について楽に考えてもいいのかなと思えたこと</p>
<p>高校3年生の今、勉強において壁にぶつかる事が多いですが、失敗から何を学ぶのか、その失敗をどう繋げていくのかを考える事が今の自分にとって大切なんだと気づく事が出来た気がします。</p>
<p>知識詰め込み型学習から学び合い学習に変わっていくことは、知っていましたが、やはりそのためには基礎となる知識が必要だということを改めて確認できました。私は教育者になるのが目標なので、今の時代にあった教え方、学び方を知ることがまず第一歩なんだなと思いました。</p>

私は受験生ですが、覚えることに重点を置くのではなく理解しおもしろがることをやっていこうと思います。

先生方のやり方に不満や疑問があっても、それを全て否定することは自分の視野を狭めることだということが最も大事だと思った。

〇お話の中で興味が一層深まったことを教えてください。

興味が一層深まったことは何度も話に出てきた「ペリーの認知的発達段階説」のこと。自分がどの段階にいるかを知り、次の段階へ1歩を踏み出すことがどれほど大事かが今日分かった。自分自身が学習に対してどう考えているかによって自分がまだ未発達段階にいて、さらに上に進まなければならないというのが興味深く感じた。

弁護士の話の中でもっと視野を広くして考えてみてもいいんじゃない？という先生の意見にすごく頷きました。実は自分の思い描いている世界はすごく小さくて、広い世界を見られていなかったのかもしれない。もう少し視野を広くして多面的に興味を示したいと思います。

とにかく先生方が本音で向き合ってくさったので全てのお話が為になり、また自分を見つめ直す良い機会になったと思う。その中でも特に、普段での学校の授業の受け方に興味がいっそう深まった。

自分は何事にもとりあえず〇か?やあってる、違うなどと絶対的な考えを持つことが多いですが、それがいかに自分の選択肢を狭めているのかを改めて学べた。

私は留学の話に興味がありました。今まで留学について考えたことはなかったし、外国に行くのは怖いと思っていたけど、お話を聞いて私も人生が変わるような体験をしてみたいと思いました。

美馬先生の海外と日本での価値観のこと。日本とは逆なことが多くて、自分も海外にいて、日本と異なる文化や思想、逆に似ていることなどを知りたい、学びたいと思った。

「不可逆的な出会い」のやつに共感した

海外の大学に行ってみたくと思った。それによって自分の視野を広げてみたい。

失敗はそのままにするのはいけない、成功するために失敗を見直すことが大事だということ

本質を求めることが本質。

海外について、鈴木先生も美馬先生も海外に出て新たなことに気づき、考え方が広まったという経験を話してくれたため、自分も一度は海外にいて、勉強したいと思った。

覚えるばかりが勉強じゃないということ

先生方の体験のほとんどが参考にできそうなことで、私も熊本だけでなく、日本、世界に目を向け、今の自分の考えを色々変えていきたいと思いました。

評価に対しての質問に対して、それによって自分を正当化しようとするのはいけないと仰ったのが印象に残った。私には質問者が自分を正当化しようとしているかもしれないという考えはなかったので、そんな見方もあるんだなと思った。色々な方向から考えると新しいものが見えてきて面白いなと感じた。

「1番重要なのは？」という質問はまだ、その人は絶対主義段階から抜け出せていないという話を聞いて、より先の段階に進むには、もう少し広い視野をもって物事を見極めるようにしたいと強く思った。

勉強はなぜずっとしなければならないのかという問いに、鈴木先生も美馬先生も当たり前のように楽しいからしてるんだよと答えてらっしゃって凄く驚き、また海外に行くことで視野を広げることができるという話に興味を持ちました。

学習することは受験のためだけではない

今回、先生方のお話を聞いて失敗というものへの考え方が大きく変わった。これから色々な場面で失敗をしっかりと成功へと繋げられるように頑張っていきたい。

鈴木先生の高校時代の話などを聞いて、今のうちに学び方を学んでおくことの大切さを知ったこと。

下水道の話が面白くてもっと調べてみたいと思います

日本だけでなく世界の話を知っていると、とても興味深い話ばかりでたくさん知りたくなった。

いろいろな事に興味持ち、何事にも首を突っ込んでチャレンジして、どんどん色々なことを知っていくこと！色々なこと経験や知識を得ることで、自分自身の世界が広がる！

たくさんの世界を見てみるのが大事だという話にとっても興味を持ちました。私は言語が違う人と話すのが苦手という理由で留学に消極的でしたが、今日の話を知って留学して他の国の人や文化に触れてみたいと少しずつ思うようになりました。

「1番」とかじゃないんじゃない？という言葉がとても心に残りました。失敗も、成功のもとだという言葉は先生方のお話で、本当なんだなと思いました。

失敗をそのままにすることが失敗で、失敗した後成功に繋げることが出来れば、それは失敗じゃないんだと理解出来た。

不可逆的な出会いというものが、自分の経験の中にもあったことが分かりました。

リベラルアーツについて、先生がおっしゃった学ぶことは楽しいと思えるように学び続けたいと思った。

「テストなので答えられないのは、その内容を深くまで理解していないからだ。」という言葉がとても心に残り、共感しました。確かに理解していれば、全てのことに応える事が出来るので、学びをもっと深めることを意識しながら、勉強に取り組んでいこうとおもいました。

努力点をもらえるなんて甘い考えだということ。

弁護士になりたいといった生徒の意見に対して、世界は私たちが知らないことであふれており、世界には、たくさんの仕事があるから一つの目標に固執せず、もっと広い世界を見つめることが大事だということをおっしゃいました。私も、広い世界を知っていきたいです。

なぜ学び続けるのか、という質問に対して美馬さんが楽しいから、と答えられたこと。学ぶということは、楽しいと一瞬で答えられるほど、自分も学びに積極的になって、自分の視野を広げていけたらいいと思いました。

自分まだ将来の夢目標ははっきりとは決まっておらず、悩んでいましたが、先生の話を知って他にも世界にはいろんな職業があるからもっと学んでいろんなことをいっぱい知ることが重要であるということ。

ノートをまとめる楽しさという内容です。

私はノートを取るのが大嫌いなのですが、成績に入るということでただただ書くだけのノート取りをしています。ですが、今日の講演を知って、もっとノートをとる楽しさというものを実感していきたいなと思いました。

質問などでも「1番心に残った〜」「どれが1番〜」という質問が多い中、鈴木さんたちが1番というのではないということを知ったのでコミット段階で考えてるのかと思った。

私は今まで奇行な目で見られることが多かったです。いつも通りに行動しても人とは違うことをしてしまうので煙たがれることも多かったです。だけど自分に負けたくなくてそのまま生きてきたんですが不安は残ってました。ですが、今日のゆり先生が言っていた世界の価値観や先生が自分を持っている様に自分はこのままでいいんだと思えることができました。まだ不安はありますが、私もいつか自分を持ってカッコよく見せれたら良いです。

努力しなくていいという言葉が深いなと思いました。無駄なことはせず、必要なことを厳選して行うということかなと思いました。

絶対主義的段階にいる私にとって答えはひとつじゃないってこととか、根拠的なものを説明できるようになるとかは改めて衝撃というかなんとかそういうのも受けました。知識の先を目指して生きている限り学び続けるものであることをしっかり理解して繋げていきたいとこの講演を聞いて思いました。まだ高1なのでまだまだ頑張っていきたいと思いました。

鈴木先生と美馬先生の人生の経験を混じえたお話がとても印象に残りました。

僕は将来外国に留学したり、行ってみたいという考えがあり、講演の中でもあったように、文化や仕事、考え方の違いをたくさん知ることがあると改めて理解しました。

自身が行く時には、きっと挫折したりすることもあるかもしれないですが、どういう違いを感じたかなど記録しておくのと役に立つんじゃないか、などまだ先のことながら思いました。

美馬のゆり先生が、リベラルアーツの話を振られた時に、「だって楽しいじゃない」と仰っていました。それこそが勉強に必要だと思うし、勉強についての向き合い方が変わった話だったと思う

美馬先生が、もともと数学の先生になるつもりだったけどひとつの体験で考えが変わったという体験を聞いて、私も自分の進路を好き嫌いで決めるのではなく、もっと視野を広げていろいろなことを体験したいと思いました。

学習設計マニュアルをこれまでも読んできたが、今日のお話を聞いて、まだまだ自分が学習設計マニュアルをしっかりと読めていない気がしたから、今日のお話を踏まえてもう1度読み直そうと思った。

外の世界と今私がいる世界の価値観は、全く違うものなのではないかと先生方の話を聞いていて興味が湧きました。盲点だったのは、今の授業体制を否定して自分を正当化するのを簡単にしてしまっていたことです。私は、質問の内容だけを聞いたときは、確かにそうかもしれないと思っていたので、先生の話聞いて考えが変わった気がします。

○今後さらに取り入れていこうと思うことを教えてください。

自分は学習の面でまだまだ課題ばかりで、変えたくても中々変わらない自分がいます。今日の講話を聞いて、失敗は沢山した方が良く、むしろしない人はいないんだという言葉に少し救われました。失敗を恐れずに何事も取り組むということこれから取り入れていこうと思います。

自分自身スケジュール管理はもっと細かくしたいな、と思いました。美馬先生が25,26歳のときに空いた時間を有効活用できるんだと気づいたとおっしゃっていましたが高校生で知ることができた私はとてもラッキーだと思います。しかし、知っているだけで活用しないと意味がないので実践していきたいです。

先生達がやってみようと言ったことに、最初から否定するのではなくて一回試してみる

先生のことを全否定せず、自分の考え方と先生の考え方の両方を持ち広い視野を持つこと。

今回鈴木先生と美馬先生の話聞いて学びを楽しむことが重要なように感じたので楽しめるようによく理解できるようにしたいです。

前に読んだ時と考え方が変わっているかもしれないから学習設計マニュアルをもう一度読んでそこから今の自分はどうしていこうか考えていきたい。

理解とバランスが必要と言っていたので全てのことにに対して、理解をして、バランスを保つようにしていく。「異なる世界に身を置くことで見えてくるもの

基準は1つではない。多様な見方がある」とあったので、これからは視野を広く持って、周りのことを見たり考えたりしていこうと思います。

今まで留学など海外に行くことに関して消極的だったけど、外の世界に出会うことで、自分の考えを変えるきっかけになり、世界が広がると聞いて、海外に出ることも考えてみようと思った。

自分のやりたいことを見つけて、周りを巻き込みながら楽しく生きる！ 失敗で終わること、それが失敗。成功=失敗+失敗。

自分自身と向き合って、自分のタイプを見つけて自分らしい学びかたを発見し実際にすること。また、外国の文化について調べること。

まずは自分の学び方についてもう一度向き合い、自分の学び方を見直していきたいです。具体的にどうゆうものかという今までは宿題だけただ適当にやって、終わりみたいな感じだったけれど、時間の面から考えたり、自分にあった学習スタイルをみつけて効率的に勉強していきたいです

答えをだして終わらないで考え方は他にないのかなど時間をかけて学んでいきたい。

講演会から、自分とちがう考えを否定して、理解しようとしらないのも、自分の世界をせばめてるだけなんだなと思った。見方を変えてみたりやってみたりしたら、違う発見があるかもしれないなと思いました。

今の自分の段階が改めてわかったので、次に繋げるためにもう一度この章を読んで考え直したい。

失敗をしたら私は、すぐに落ち込んでしまうけれど、落ち込んでいる間もったいないと思いました。失敗によって、成功に近づいたと思いたいです。

自分をしっかりもってこれから頑張ろうと思いました。先生のお話の中にも、自分をしっかりとっているなら、それをずっともっていた方がいいと仰っていたので、自分もそうしようと思いました。

まずは自分のやりたいことを、決めるということです。鈴木先生の最後の2高生へのメッセージでもおっしゃっていたように、好きなことを見つけないと、楽しくもないと思います。だから、まず、そこを明確にしていきたいです。

私は今まで失敗してしまった時、何でできないんだろうなどと思ってしまい、失敗をすることで成功から遠ざかるというマイナスの考え方をしていました。しかし、今日の講話で失敗はむしろ成功に近づくためのものだと聞き、これからは失敗を前向きに捉えられるようにしたいと思いました。

今回の講演会によって、学び方を変えようという意欲がいつそうたかまりました。まだ、テストもなく時間がたくさんあるので向き合っていきたい。

学習設計マニュアルには今回、公演をしてくださった鈴木先生や美馬先生などの多くの方々の経験を元に考えられたことが書かれてあるということが分かりました。だから、自分をいい方向に成長させるためにももっと学習設計マニュアルを読み込んでみようと思いました。

ARCSモデルを取り入れていきたい。鈴木先生のように、勝手に4色に分類できるようになってみたい。

学びを積極的に深めることです。英語がすごく好きなので、もっと深く英語を学んでいきたいと思いました。また、得意教科の時にしている勉強法も苦手教科の勉強に適用できないか考えていきたいです。

「学び方を学ぶ」ための前提となる考え方：同意できますか？ R 2

次に挙げる【「学び方を学ぶ」ための前提となる考え方】14項目に挑戦してみてください。

項目全てに、その文章の根拠となるモデルと「学習設計マニュアル」の章が示されています。難しくわからない時は、「保留」で構いません。

GR/ASでの「学習設計マニュアル」の取り組みを経て「学び方を学ぶこと」の理解が少しずつ深まり、この個人ワークの「ひっかかり」が「納得」→「賛成」へと変化していきますように。

- 1.人によって学習ペースは違うが、その人にとって十分な時間をかければみんな最後には学習目標を達成し、自分で学んで獲得する知識が徐々に増えていく。(時間モデル：第9章)
- 2.全部覚えていなくても応用問題に取り組むことはできる。必要な情報を参照しながら、他者に助けられながら学習に取り組む中で、必要な知識・スキルを自然と身に付け、自分一人のできる学びの範囲を徐々に広げていくのが「真のまなび」である。(経験学習：第17章)
- 3.人は、情報を受ける(インプット)だけでは学べない。生徒が自ら行動して、自分なりの知識を組み立てていくのが効果的な学習方法であり、頭と身体、記憶と応用力ではそれぞれ最適な練習方法が異なる。(9教授事象：第12章、構成主義)
- 4.人は失敗をしてその原因を追求しようとすることで学ぶ。失敗したときにその理由を考え、次に挽回の理由を考え、成功事例をひろげていくのが、自立した学習者になるために効果的である。(事例駆動型推論：第10章)
- 5.何かを学ぶときには、そのことだけを理解することを目指すよりも、「これが役に立つ場面はどこにありそうか」を想像して、学ぶ意味を感じながら学ぶようにするのがよい。(状況学習論)
- 6.教えてもらおうとすればするほど自主性を奪われる結果になりかねない。先生に頼るばかりは避けて、自分で選択・制御して責任をもち、「自分事」だ、自分がやらないと学習は前に進まないのだと覚悟するのがよい(成人学習学)
- 7.学び方は教科によって違う部分もあるが、共通した学び方もある。得意科目の学び方を苦手科目を学ぶときにも使えるかどうかを試してみるのは無駄ではない。(汎用性)
- 8.学び方は自分の経験だけで工夫して身につけるのだけではなく、学び方のノウハウとして蓄積されることを学んで真似して使ってみる方が、短時間で身につく。(教育の科学化)
- 9.学習に役立つ「学び方」の基礎理論や他の人のノウハウは、適材適所で何でも真似して活用してよい(折衷主義)
- 10.学習の評価は、総学習時間数(プロセス)ではなく、学習成果で行われるべきである(履修主義でなく習得主義)
- 11.到達すべき目標をすでにクリアしていることが確認できた生徒は、次の段階の学習に取り組めるようにしてよい(事前テスト：第13章)
- 12.教師の責任は、最低合格条件を生徒に明示して、複数回のチャンスを与え一人でできるように導くことであり、各生徒が実際にそこに到達するかどうか責任を負うことはできない(学習者制御：第18章)
- 13.やる気のない自分を放置せず、その気になろうと工夫することは、学習の責任範囲にも含まれる(動機付け設計、ARCSモデル：第11章)
- 14.高校生での学びを小学校のように待っていてはいけない。学習方法もやる気も自分で選択・制御して、学ぶ責任は自分にあることを明らかに理解するのがよい。(自己主導学習)

学習（業務）意欲を高める ARCモデル

項目に○	業務内容	到達目標
	教科指導	
	分掌部業務	
	部活動指導	
	担任指導（その他）	

(S) Satisfaction 満足【やってよかった】					
分類	項目内容	具体的実践			
		重要度【A：重視する	B：中間	C：それほど重視しない】	
Step4	S-1	習得した学びを実感する	A	B	C
	S-2	努力が報われる	A	B	C
	S-3	裏切られない	A	B	C

(C) Confidence 自信【やりがいがありそうだ】					
分類	項目内容	具体的実践			
		重要度【A：重視する	B：中間	C：それほど重視しない】	
Step3	C-1	成功への期待感を持つ	A	B	C
	C-2	成功体験を積み重ねる	A	B	C
	C-3	自分でやり遂げたと思う	A	B	C

(R) Relevance 関連性【やりがいがありそうだ】					
分類	項目内容	具体的実践			
		重要度【A：重視する	B：中間	C：それほど重視しない】	
Step2	R-1	目標に向かう	A	B	C
	R-2	好みに合わせる	A	B	C
	R-3	経験とつなげる	A	B	C

(A) Attention 注意【おもしろそうだ】					
分類	項目内容	具体的実践			
		重要度【A：重視する	B：中間	C：それほど重視しない】	
Step1	A-1	興味を引く	A	B	C
	A-2	好奇心を刺激する	A	B	C
	A-3	変化を与える	A	B	C